令和 6 年能登半島地震における救護班第 6 班の活動

10階B病棟　看護師長　田中　友紀

活動期間：2024 年2月3日(土)～2月 7 日(水)
活動場所：輪島市避難所各所（輪島市ふれあいセンター、カフェ丹輪島、三井公民館、鵠巣小学校）、こころのケア（輪島市役所、市立輪島病院）

活動内容
第 6班とし て 2月 3 日～7 日(現地活動は 4 日～6日)に活動を行う。
巡回診療・避難所アセスメントとこころのケアの2班に分かれて活動をした。

＜巡回診療＞

2/4輪島市ふれあいセンターで避難所アセスメントを実施する。二次避難が進んでおり、避難者が仮設住宅へ移動する例もある。また避難所に現在2名の災害支援Nsがいるが、活動終了が予定されている。2/5から輪島市民病院の外来再開予定、地域医療への移行期になってきている。
１階は仮設の福祉避難所になっておりTMATが担当している。現在13名避難者がおり、2日後に本来の施設に移動される。カフェ丹輪島は現在25名の避難者がおられる。グループホーム（マハロ）の利用者が避難している状況。施設のインフラが改善されており、一部の避難者は施設に戻る予定。

2/5三井公民館に段ボールベッドが届く予定となっており、DMATや市役所員、長浜日赤、ボランティアスタッフらと協働して段ボールベッドの設置を行った。そのあと、発熱の情報があった２名の周辺住民宅を訪問し、診察を行った。2名ともコロナ陽性であったが解熱しており、経過観察となった。住民の様子を公民館館長や公民館職員にお伝え。
段ボールベッドが入ったことで再度避難所アセスメントを行った。
周辺の集落にある3箇所の避難所が閉鎖となり三井公民館に集積していく想定であったが、現状はそこまで人数増えてはいない。館長は、遠くの輪島の市街地からも避難場所に困っていたらこちらに来てくれればいいというお考えであった。
一方で一部のキーパーソン（館長、公民館職員、輪島市職員など）に運営が委ねられている現状もあり、その方々のこころのケア等のフォローが必要と感じた。

2/6 鵠巣小学校はコロナ患者１名と濃厚接触者の診療を行う。感染管理はきちんとされている印象。この避難所は沿岸部にあり、１月中旬まで道が寸断され外部からのアクセスが全くできなくなっており、物資補給は自衛隊の空輸のみという状況で住民の自主運営で成

り立っていた地域であった。2/6より輪島高校で小中高のすべての授業が再開され、１地域
以外の輪島市の学生はすべて輪島高校で授業を受けることとなったとのこと。これに伴い輪島高校では避難所を閉鎖することとなり、鵠巣小学校へ避難所を移動する
ことを検討している被災者もおられる。

＜こころのケア＞
市立輪島病院ではリハビリ室の一角でホットルームを１/30～開設しており、毎日予約は満員であった。看護師や薬剤師、理学療法士など様々な職種が利用されていた。看護師に関しては特に災害派遣ナースが声をかけてくださり、時間をつくって利用されていた。
自宅に住めず病院に寝泊まりしており、仮設住宅など次の家がみつからないため、輪島をでることを考えている方や、朝市が焼けたと聞いて周辺に足を運ぶこともできないと話されている方もおられた。
問題点として、個人情報の観点からか、利用者の名前は残さず行ったケア、話した内容のみデータを残すのみで、継続してケアが必要な人の把握が困難であった。そこで引き継ぎたい場合はその内容とお名前の書いた紙に残すように体制を変更した。

輪島市役所では市役所内のお部屋をお借りして、1/25 からホットルームを開設し 10 時から 19：30 まで実施した。昼休みや 17 時の仕事終わりに来られるため、その時間帯が混雑した。活動期間中は輪島市役所の一部署しか来られず、自衛隊や他府県からの支援者の方が多く来られた。夜間中途覚醒してしまう、お酒の量が増えたなど様々な症状を訴えられていた。

自身が被災しながらも支援者として働いている、本当にこころのケアが必要な人が来られていないのではという問題点にあがった。もっとホットルームを知ってもらうため、ちらしやポスター貼付し、疲れていそうな方に直接お声掛けするなど地道に活動を続けた。
こころのケアと災害対策本部の連携について、間違いがあったため一部マニュアルを変更し、引き継ぎを行った。

一日も早い復興をこころより願っております

第６班　一同